

平成28年度 学校自己評価表（実施段階）

福岡県立久留米筑水高等学校長

学校運営計画(4月)			評価(3月)	
学校運営方針	生徒一人ひとりを大切にするとともに、学校集団としての連帯感を高め、社会性をはぐくむ教育を通して心豊かな人間形成を目指し、組織的・計画的な教育活動を展開する。「鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばし、明るく元気な学校、専門学科としてのスペシャリストの育成」を目指す。その方途として、キャリアアップ、マナーアップ、クリーンアップの3アップ運動に取り組み教育活動の成果を高める（ステップアップ方式でレベルアップを図りパワーアップする）。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>○成果</p> <p>1 一人一人を見据えた授業内容の工夫と改善が進み、学習意欲と授業規律の向上が図られた。</p> <p>2 挨拶、時間厳守など基本的な生活習慣が確立され、マナーアップが図られた。</p> <p>3 広報活動の推進が図られ、志願倍率が向上した。さらなる工夫・改善を図る。</p> <p>○課題</p> <p>1 多様化する生徒に対応する教育相談体制の充実。</p> <p>2 中途退学者ゼロに向けた取組の強化。</p> <p>3 希望進路の多様化に対応できる進路指導を確立し、卒業生全員の進路決定を目指す。</p>	<p>○基礎学力の定着と授業の改善充実を図り、生徒の学力と実践力の向上を目指す (キャリアアップ、クリーンアップ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着と学習意欲の向上及び実践力の向上に向け、授業の工夫改善及びきめ細かい指導を行う。</li> <li>1時間の授業を大切に生徒の理解度を確保するとともに、学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、確かな学力の育成を図る。</li> <li>各学科等の特色を生かした資格取得やコンテスト・各種競技等の指導を充実し、キャリアアップを図る。</li> <li>学校全体及び授業に取り組む環境と安全・安心な学校環境を作る。</li> </ul>		
	<p>○基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図るとともに、自律心と思いやりのある心豊かな人間形成を目指す (マナーアップ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、時間厳守、礼儀作法、掃除、頭髮・服装等のマナーアップの指導を全職員で取り組む。</li> <li>部活動加入を推進するとともに、活性化を図る。</li> <li>全教科・領域において、自尊感情の育成、自律心と思いやりのある心の育成を図り、いじめの撲滅と人権意識の高揚に努める。</li> <li>担任、学年、学科相互の情報共有を図り、保護者等との連携がとれた教育相談体制のもと、中途退学者ゼロを目指す。</li> </ul>		
	<p>○キャリア教育の充実を図り、希望進路の100%実現を目指す (キャリアアップ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間の継続的・組織的な指導体制のもと、効果的な現場実習や外部人材を活用し、生徒の進路意識の高揚を図る。</li> <li>各学科において、将来のスペシャリストにふさわしい専門知識と技能を身につけさせるとともに、勤労観、職業観を育成する。</li> <li>生徒の学校から社会への円滑な移行を図るため、全職員で企業訪問を行う。</li> </ul>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教 務	専門教育の充実と普通科目における確かな学力の育成と伸長	授業の改善充実を図り、基礎基本を身に付けさせる。スペシャリストを育成する専門教育の充実と普通科目における学力の育成と伸長に取り組む。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度、授業評価の在り方の研修を行ったが、次年度はさらに検討を重ねていく。</li> <li>アクティブ・ラーニングについて、その方法について全教科全科目で行うようにする。</li> <li>次期学習指導要領の改定や新高校共通テストに備えて、教育課程の検討を行う。</li> <li>学年・クラス・学科・教科担当との連携をさらに密なものにする。</li> <li>ICTを利用した授業展開を充実させる。</li> <li>欠席・遅刻の数を本年度よりも少ないものにする</li> </ul>
		授業アンケートの活用による授業改善に取り組む。	B	
		外部講師特別招聘事業等地域の教育力を積極的に活用する。	A	
	教育内容の充実	授業においてアクティブ・ラーニングに取り組む。	B	
		学習状況調査を行い、生徒の学習に関する実態把握を進めるとともに学習習慣の確立に努める。	B	
		観点別評価の周知を図り事例研究を行う。	B	
	きめ細やかな対応により中退者ゼロを目指す	習熟度・少人数授業の充実を図る。	A	
		曜日による授業実施時間数の改善に努める	A	
		情報処理室・視聴覚教室等の教育施設・設備の有効利用を図る。	A	
	時間厳守、授業規律の確立等、基礎・基本を重視した指導の徹底	充実した新教育課程編成に取り組む。	A	
		教科担当者会議を計画的に実施し、情報の共有化を図る。	A	
		中学校との連絡体制を強化し、早期の対応を図る。	B	

広 報	生徒募集の取り組みを積極的に行う。	各部・各学科と協力してHPやブログを活用し、生徒の活動内容などの新しい情報を発信する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は例年行っている広報課の業務（中学校職員対象説明会、中学校訪問、夏季見学会、体験入学、親子相談会等）を実施し、本校教育の認知度アップに貢献した。次年度は今年度の行事を踏襲し、さらに学校ホームページをリニューアルしたい。また、中学校訪問・学習塾訪問をさらに充実させていきたい。いずれにせよ本校の教育活動の認知度はまだ低いので、改善を図りたい。</li> </ul>	
		中学校訪問や進路説明会・進路相談事業、校外における広報活動を積極的に行い、生徒の活動内容や特色を伝える。	A			
		校内において、中学生体験入学や学校説明会を行い、本校を理解してもらう機会を設ける。	A			
	生徒の活動の情報発信と安全な情報管理体制の確立を図る。	パソコン及びサーバーのウィルス対策を徹底し、校内の安全なネットワークを構築する。	A	B		
広報活動の組織化・体系化を図る。	年間の活動の流れと役割分担を明示し、組織的・計画的な広報活動を行う。	B				
	学事部・企画庶務課・各学科との連携を強化する。	B				
生徒指導	基本的生活習慣の確立	服装指導の徹底継続を図る（学年・学科との連携強化）。	A	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>学科・学年との連携を図り生徒指導の更なる充実</li> <li>問題行動の内容により迅速対応及び初期対応の方法や在り方について検討する。</li> <li>加入率の定着（退部者の減少）を目指し見学会推進を図る。</li> <li>全校集会を含め関係行事の運営において各種委員会活動の充実。</li> <li>個別指導のあり方について外部関係機関との更なる連携の充実を図り、いじめの防止と早期発見の取り組み方法や情報収集について検討。</li> <li>交通マナー向上のための取り組みの充実を図る</li> </ul>
		全校終礼・登下校指導等の継続実施と効率化を図る。	B			
		問題行動へ指導の迅速対応と充実及び指導マニュアルの周知を図る。	B			
	生徒会活動の活性化	部活動の加入促進と指導者・施設等の条件整備に取り組む。	B	A		
		体育祭の成功に取組む。	A			
		各委員会の定例化と全校集会の自主的運営と活用を図る。	A			
	教育相談の充実	学年・学科との情報共有化に取り組む。	A	A		
		個別事象への細かな対応と関係機関との連携を図る。	A			
		関係校務分掌及び学年・学科との情報共有によるいじめの発見と早期対応の強化を図る。	B			
	安全教育の徹底	交通安全教室・SDE等の実施による安全指導に取り組む。	B	B		
		危険箇所の点検と指導を徹底する。	B			
		自転車・バイクの実技講習の充実を図る。	B			
(健康・安全指導)	生徒の健康安全に対する意識の向上	保健委員会による健康安全に関する啓発活動と保健便りの充実を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の身体状況が年々多岐に渡っている現状を踏まえ、先ずは個々の健康状態をしっかりと把握し、個別指導につなげるようにする。</li> <li>ゴミの持ち帰りが少しずつルーズになってきている。ゴミの減量化に向けて委員会活動等を通して取り組んでいきたいと考える。</li> <li>教育相談委員会は年々充実してきている。しかし相談内容が多様化してきている生徒に対応するためには、今後、さらなる特別支援コーディネーターの活用が不可欠であると考えている。次年度は、特別支援コーディネーターの体制作りが一番の課題であると考えている。</li> </ul>	
		学校行事における事前健康調査を実施し、個別指導につなげる。	B			
		保健室と学級担任との連携に努める。	A			
	学習環境の整備 美しい学校づくり	美化コンクールを継続的に実施し、生徒の校内美化意識を高める。	A	B		
		ゴミの持ち帰りと分別を徹底する。	B			
		美化委員会によるごみ減量のコンクールができるように準備する。	C			
	教育相談・特別支援教育の体制づくり	教育相談委員会の充実を図る。	A	A		
		面談週間やいじめアンケートによりいじめ等の早期発見・早期対応に努める。	A			
		カウンセラーを最大限に活用した教育相談の新たな体制をつくる。	A			
	性と心の健康相談の充実	専門医による性と心の健康相談を実施する。	A	A		
1年生を対象に生徒心の健康相談を実施する。		A				
進路指導	生徒理解に努め、ミスマッチのない進路指導を行	就職希望生徒全員との面談を実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力テスト導入2年目になり、2年生については、三者面談での自己理解以外の活用を考える。</li> <li>3年生8月の外部講師による面接指導、2年生2月の進路ガイダンスは、次年度も引き続き実施し、進路学習の流れをつくる。</li> <li>1年生の進路ガイダンスを実施する。</li> </ul>	
		就職希望生徒全員へ面接指導を実施する。	A			
		提出書類作成から出願までの流れについて保護者と連携をとる。	B			
	各学年の進路学習の流れの再構築	進路学習HRの指導案を各学年で見直し作成する。	B	B		
		進路学習HRに「進路の手引」を活用する。	B			
		進路行事を系統的に繋がるように内容を改善する。	B			
	企業訪問	学校全体の企業訪問の計画を作成し実施する。	B	A		
		昨年度内定をいただいた企業を中心に訪問を行う。	A			
基礎学力の定着を図る企画を考える	基礎学力テストを教科指導に活用する。	B	B			
	担任による二者面談および三者面談に充実を図れるよう研修会を実施する。	B				
企画庶務	各部・課と連携し、円滑な公務運営に努める。	各部・課との連携を図る。	A	A	<p>今まで以上に各課・各科との連携を早めに行い、円滑に行事が活動できるようにする。</p> <p>急遽、地震訓練を実施したが、来年度は防災訓練として火災避難訓練の両方を同日に行うように計画する。</p> <p>P T A活動は、多くの保護者の参加で有意義な活動ができた。</p> <p>ホームページのP T A更新がで十分でなかった。</p>	
		各行事の早めの計画、連絡調整を行い組織的に運営する。	A			
		各公簿・資料の作成を行う。	B			
	P T A・同窓会等の連携	P T Aとの連携を図り、教育活動支援に励む。	A	A		
		同窓会との連携を図り、教育活動支援に励む。	A			
		110周年行事の推進に取り組む。	B			
	広報活動の推進	筑水通信の充実を図る。	A	A		
P T A、同窓会のホームページ作成・充実を図る。		B				

図書研修	わかる授業の推進に取り組む	研究授業を授業改善に繋げ、授業の充実・活性化を図る。	B	B	授業への分析は進んでいるが、そのまま授業改善に繋がらないケースも見られ、課題を残している。研修会は、その時々学校の状況や要望に臨機応変に対応してきたが、限られた時間での取り組みに終わっているため、検証が必要とされる。図書館の運営は、委員会を中心に熱心に取り組んできた。今後も積極的な運用に努める必要がある。
		授業アンケートの分析を基に授業改善に繋げる。	B		
	職員研修により、職員の資質向上を図る	校内外での研修を推進する。	A	A	
		効果的な職員研修を企画・立案する。	A		
	1年間の研修成果をまとめて研究紀要を発行する	各種研究等の推進と情報収集に努める。	B	A	
		研究紀要を発行し、成果を共有する。	A		
図書の実、図書館の利用向上を目指す	貸出し冊数を増やすと共に電子化を進める。	A	A		
	図書館利用のマナーアップを図る。	A			
	図書委員会活動を活発に行う	カウンター当番や本棚の整理など校内活動の定着を図る。	A	A	
		他校の交流を図るとともに文化祭の成功に繋げる。	B		
農 務	農業クラブ活動の充実を図る	プロジェクト学習、各種競技、鑑定の指導体制の充実を図る。	A	A	本年度は県事務局として農業クラブ諸行事の運営に携わり、生徒と職員が連携・協力し成功することができた。また、農業クラブ役員は、大会運営にあたり本校クラブ員をまとめリーダーシップを発揮できた。社会人招聘事業、現場実習はもとより農業関連機関との地域連携を密にし、産業分野の人材育成を図る。
		校内意見発表、プロジェクト発表の実施計画の再構築を図る。	B		
		県連事務局校として職員、生徒が連携し大会運営を成功させる。	A		
	各学科の連携強化を図る	学科主任者会、農務会議等諸会議を活発に開催し、情報の共有化と計画的な行事の推進を図る。	A	A	
		地域・企業との連携を密にし、進路開拓に繋げる。	B		
希望進路の多様化に対応できる指導の体制づくり	規範意識の向上に高揚に取り組む、全学科職員の連携を図る。	B	B		
	将来のスペシャリストにふさわしい専門知識と技能を身につけさせ、勤労観、職業観を育成する。	B			
	進路実現のためにも一つでも多くの資格を取得させる。	B			
生物工学科	プロジェクト学習を中心とし専門教育の充実	「農業と環境」「総合実習」「課題研究」の科目で基礎から応用まで発展的な学習体系を構築し、内容の充実を図る。	B	A	圃場管理とプロジェクト学習をうまくリンクさせ、内容の充実を図る必要がある。 2、3年の課外受講者が少ないので意識の向上を図りたい。 バイオ技術認定試験の合格率は約80%であった。次年度は全員合格をめざし、少なくとも90%の合格率としたい。 良い習慣が身につけていない生徒が2割程度いる。引き続き指導を続けたい。
		実験室・実習圃場の環境整備、整理整頓に努める。	A		
		農業クラブ活動への積極的な参加と競技の上位入賞を目指す。	A		
	資格取得の合格率アップに向けて取り組む	意識の向上を図り、積極的に取り組ませる。	B	B	
		バイオ技術者認定試験は全員合格を目指す。	B		
		課外での指導も強化する。	B		
生徒の進路決定に向けて取り組む	基本的な生活習慣の確立（遅刻者、挨拶、言葉使いの指導）。	B	B		
	実験実習。ノートの評価、文章の添削も行ない文章力をつけさせる	B			
	授業の中で進路について考えさせる機会を持つ。	B			
食品流通科	進路の実現	3年間を通して行う成績不振者を出さない指導。	A	A	年々学科での指導が浸透し、生徒の雰囲気も変わった。本年度は学科集会や朝のテストおよび追試などで入室マナー、遅刻欠席、基礎学力の向上の部分で大きな進歩があった。特に、事あるごとに行った学科集会は有効であった。更なる生徒の飛躍には職員の資質向上が不可欠で、常に生徒募集を考えた活動が不十分で、昨年度入試の教訓が活かされていない。
		遅刻・欠席の減少。	A		
		資格取得を推進と、基礎学力の向上を図る。	A		
	食品流通科全体のスキルアップをはかり入学希望者増に繋がるブランドを確立する	学区内企業や団体と協力した商品作り。	B	A	
		実習を通して生徒の技術力、安全意識の向上を図る。	A		
		地域住民へ学科のPRができる授業展開を行う。	A		
校内でのマナーアップ	生徒の言葉遣い、挨拶、時間を守る指導を行う。	A	A		
	学科集会を行い指導の周知統一を図り徹底する。	A			
	教室および実習室の学習環境を整える指導を行う。	A			
環境緑地科	生徒の学力と実践力の向上を目指す	時間ごとに授業の目的を明確に説明し理解させる。	A	A	早期実習計画の作成に努める 実習での記録をとる時間を確保し、書く習慣を身につけさせたい。 校外実習(管理作業、ボランティア等)は地域からの評価も高く、生徒たちにとっても有意義な実習で、経験となるので、今後も積極的に推進していきたい。
		社会で有意な資格を確実に取得させる。	A		
		実習において記録時間を確実にとり、書く習慣をつけさせる。	B		
	基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚を図る	挨拶、頭髪、服装、帽子着用指導を毎時間行う。	B	A	
		ボランティア活動を積極的にに行い、社会に有意な人材の形成に努める。	A		
		緑地科会議を確実にに行い、横の連携を強化する。	A		
キャリアアップに努め進路実現を目指す	進路に応じた現場実習の充実を図る。	A	A		
	担任を含めた進路面談及び指導を積極的に行う。	A			
	専門企業の企業開拓を積極的に行い、応援企業を増やす。	A			

社会福祉科	豊かな感性と人間性を備えた実践力ある生徒の育成と基礎学力の向上	分かる授業、チームティーチング等、授業の工夫・改善を行い、基礎学力を定着させる	B	B	近年の福祉離れ傾向を改善するため、教科指導の工夫を行い、福祉に魅力を感じ、アクティブラーニング等、学習意欲が向上する授業実践の継続と個別指導が必要である。 福祉のマインドの育成については、施設実習や様々な交流事業等で一定の成果があった。基本的生活習慣の確立についても、定着できるように始業の際や授業中の指導を丁寧に行いたい。 国家試験対策等は、従来の生徒実態に応じた指導の取り組みを継続する。看護進学類型については、次年度の完成年度に向けて、教育課程等や進路保障を引き続き検討する。
		学科行事やゲストティーチャー招聘等を効果的・計画的に実施する	B		
		施設実習の効果的な事前・事後指導を充実させる	A		
	基本的生活習慣の確立と自律心と思いやりのある生徒の育成	自律心と思いやりをもつ情操豊かな生徒の育成を図る授業実践を行う	B	A	
		時間の厳守、挨拶、服装等の基本的生活習慣の確立を図る	A		
		生徒の意欲を喚起するための授業実践と達成感のある学科行事等の取組を実践する	A		
	資格取得への取組の充実と進路実現	課外・校内模擬試験等の実施と生徒の実態に応じた丁寧な指導を徹底する	A	A	
		進路実現に向けた職場開拓と分掌間の連携を図り、効果的な進路指導を実践する	A		
		介護福祉類型、看護進学類型の教育課程等、長期的な学科のあり方について検討する	B		
食物調理科	完全進路保障の実現	毎週の学科会議で生徒の動態・希望を把握し、進路実現に活かす	A	A	実習先の新規開拓を実施する必要がある。  食生活アドバイザーの全員合格はできなかった。個人の家庭学習を増加させる。技術考查、食育インストラクターは全員合格した。  高齢者食事会の予算が大幅減少したので内容を工夫する。
		就職・進学先に適応させた面接指導と論文指導を丁寧に実施する	A		
		校外実習先新規開拓を行い、就職まで継続できるように活動する	B		
	専門教科内容の指導充実	毎時間、調理実習での調理技術向上の細かい丁寧な指導を実施する	A	A	
		食育インストラクター、食生活アドバイザー3級の全員資格取得	B		
		食に関する最新情報を常に知らせ、時代に適合した調理師を目指す	A		
	学科行事の精選と効率化	校外実習での個人評価表を生徒指導に活かし、スキルアップに繋ぐ	B	A	
		高齢者食事会の運営をさらに改善し、地域との交流を効率よく深める	A		
		施設見学の実施先内容を検討し、調理に合ったより良い成果を目指す	A		
1 学年	基本的生活習慣の定着を図る	家庭との連絡を密に行い、安易な遅刻・欠席を防ぐ	A	A	比較的遅刻・欠席を繰り返す生徒は少なく、ある程度、学校生活に前向きに取り組むことができている。しかし様々な課題を抱える生徒もいるので、今後も家庭との連携・協力を密にしていきたい。 服装や頭髪においては先生方の継続的なご指導のおかげで、比較的落ち着いた状態を保つことができている。また指導にも素直に従うことができおり、その姿勢・態度を次年度以降も継続させたい。 考查に向けては成績不振の生徒を対象に学年統一で居残り学習を実施することで、生徒の意識の向上に繋げることができた。次年度はその意識を進路意識の向上に繋げる手だてを考えていきたい。
		面談週間や三者面談を有効に活用し、学校生活に前向きに取り組む気持ちを持たせる	A		
		日常生活や授業の開始・終了時などで挨拶がしっかりとできる雰囲気作りに努める	B		
	規範意識の高揚	言葉づかいや服装、頭髪指導において学年全体で協力し、日常的な指導を徹底する	A	A	
		生徒指導課と連携し部活動への加入を推進することで、所属意識を高めさせる	B		
		教務課との調整のもと教科担任会を実施し、各教科担当との情報の共有を図る	B		
	授業規律の確立と基礎学力の定着	教室や実習室などの整理整頓に努め、落ち着いた学習環境を整備する	B	B	
		定期考查に向けて、学年と学科および教科が連携し組織的に指導する体制を整える	A		
		進路指導課と連携して、進路意識を高める取り組みや講話などを取り入れることで学習意欲の向上につなげる	B		
2 学年	授業規律の確立と基礎学力の定着	教科連絡会等により、学年・学級担任と教科担任との情報の共有を図る。	A	A	1年次と比較すると、授業に対する態度・意欲は格段に向上しており、各教科と学年の連携がよく図れているものとする。 修学旅行では集団的な規律がよく取れ、トラブル等もなく、無事に当初の目的を達成することができた。 キャリア教育に関しては、進路指導課の取り組みもあり、生徒の意識を向上させることできた。次年度の進路希望の実現につなげていきたい。
		教室の清掃、整理整頓を徹底し、落ち着いた学習環境を整備する。	B		
		三者面談により家庭との共通認識の確立を図る。	A		
	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚	組織的な指導体制を確立するため、学年団全員の講話を実施する。	A	A	
		遅刻・欠席を少なくし、生徒の実態を把握するため、家庭との連絡を密に行う。	A		
		修学旅行の事前指導を通じて、集団としての規範意識を高める。	A		
	キャリア教育の充実と進路に対する意欲の喚起	専門分野への興味・関心の喚起、資格・検定への積極的な取り組みを促す。	B	A	
		進路への関心を高める取り組みや、家庭への情報提供を充実させる。	A		
		三者面談を活用し、家庭での早期計画を促す。	A		

3 学年	進路決定 100% の実現	学科や進路指導課と連携し、専門分野での求人確保に努める。	A	A	進路指導課と連携し、比較的早い時期に就職や進学を進路を決定することができた。特に就職は例年よりも良かった。 一部の生徒の遅刻・欠席が目立ったが、多くの生徒たちは基本的な生活習慣がきちんと確立していた。このことが進路実績にも繋がっている。 多くの学校行事では上級生としての自覚ある行動が見られた。特に体育祭ではリーダーシップを発揮し、素晴らしいものに仕上げた。
		面談により生徒・保護者・学校の共通認識を持ち、希望に合う進路を決めさせる。	A		
		希望進路実現のための基礎学力の定着を図る。	B		
	基本的な生活習慣の確立	挨拶・集合・服装等の指導を学年全体で協力し、日常的に行う。	B	A	
		保護者との連絡を密に取り、生徒の動態の把握に努める。	A		
		意欲的、積極的に授業や学校行事へ参加するように促し、全員の卒業を目指す。	A		
	リーダーとしての資質の向上	生徒会・農業クラブ・部活動等で、リーダーとして運営ができるように指導する。	A	A	
		体育祭等の学校行事では最上級生として主体的に参加するように喚起する。	A		
		進路決定後も上級生としてふさわしい行動ができる生徒を育成する。	B		